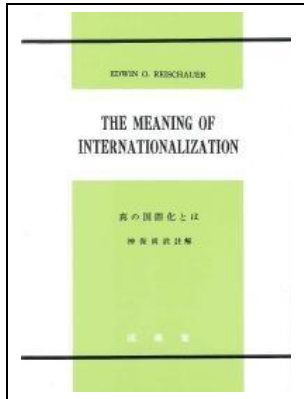


【英語科・龍池】

春休みの課題の一つ、『英語長文問題精講』・問題1の内容は読書論ですね。この機会に、じっくり腰を据えて、英文の読書にも取り組んでほしいものです。

★ *The Meaning of Internationalization* Edwin O. Reischauer

成美堂 980円(税込1,078円)



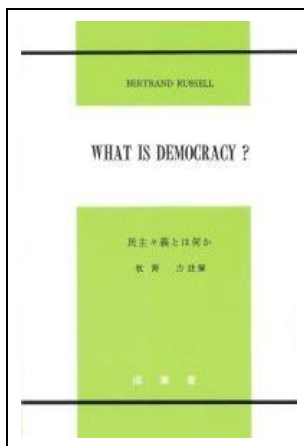
本書は、大学英語教科書として出版されているものですが、巻末に註解があり、みなさんも十分読解可能です。高校時代にぜひ読んでほしい書籍の一つです。

<書籍紹介文より>

日本はすでに国際社会の一員である。国際化は急速に進行しており、それを押しとどめることはできない。しかし、日本人の多くはまだ国際化していない。「国際化」とは何か? 「国際人」となるということはどういうことなのか? 著者ライシャワー教授が、日本の若い読者に愛情をこめて、「日本人の国際化」について語りかけたエッセイ。

★ *What is Democracy?* Bertrand Russell

成美堂 800円(税込880円)



本書も大学英語教科書として出版されているものです。前述の書よりさらに難しいですが、巻末に註解があります。この機会に少し難解な英文に挑戦してみませんか？

<書籍紹介文より>

ベルリンの壁は内側から崩れた。前衛独裁の一枚岩の団結を誇ったソ連も情報公開と市場経済導入で行き詰まりを打開することになった。なぜか。本書はそれに答えている。十月革命の後、レーニンらと対談したラッセルの所見は1990年に現実となった。なぜ民主主義が不可欠か、成否を分けるものは何か、東と西の差のない訳、などに言及している。

★『知価革命』 堺屋 太一

<書籍紹介文より>

迫り来る「知価社会」とは何か？“時代の仕掛人”堺屋太一が、ポスト工業化社会の仕組みと実像を探り、21世紀社会へのコンセプトを明示した、体系的未来予測の書。

★『私の仕事』 緒方貞子

<書籍紹介文より>

63歳で女性初・日本人初の国連難民高等弁務官となり、冷戦後の10年間、世界の難民支援を指揮した緒方貞子氏。当時の貴重な日記を中心に、エッセイ、インタビューなどをまとめたもの。難局に直面したとき、彼女はどのように判断し、どう対応したのか

★『音読すれば頭がよくなる』 川島 隆太

★『國広流英語の話し方』 國広 正雄

～‘生きた英語’に触れてみよう！～

インターネットを上手に活用すれば、生きた英語に触れることができます。英語学習の意欲向上にも繋がると考えています。

来年度の英語の科目・異文化理解の教材『最新入試英語長文20選 SKYWARD SKY Course』の本文は、様々な英字新聞から引用されています。これは、大学入試問題も英字新聞から引用されているものがあることを意味します。インターネットで読めるものがありますので、以下に紹介します。

★The Japan Times

<https://www.japantimes.co.jp/>

前述『最新入試英語長文20選 SKYWARD SKY Course』のUnit 1は、2011年12月9日に本紙に記載されたものです。

★The Japan News

<https://the-japan-news.com/>

インターネットでアメリカ・イギリスのニュースを聞くこともできます。まさに「生きたリスニング教材」です。

★PBS News Hour

<https://www.pbs.org/newshour/>

アメリカ合衆国の公共ネットワークである PBS が放送している平日夜の報道番組。

★BBC Global News Podcast

<https://www.bbc.co.uk/sounds/play/p085pbc4>